

都市計画道路3・4・25 東原村木沢線 (木の实町工区) 街路事業概要

<事業箇所>

山形市木の实町 (きのみちょう)
 地内 ほか
 [県道名：主要地方道山形朝日線
 (やまがたあさひせん)]

<事業概要>

東原村木沢線は、山形市都市計画マスタープランにおける駅環状道路の北辺に位置づけられるとともに、中心市街地と東北中央道山形中央ICへのアクセス機能の向上を図る重要な路線です。また、山形大学小白川キャンパスと山形駅を結ぶルートの一部となっており、多くの学生が通学路として利用しています。

現在の木の实町工区は、東原町から西回りバイパス間で唯一残った未改良区間で、朝夕を中心とした通勤・帰宅ラッシュ時に著しい渋滞が発生する道路となっています。また、現在県が事業を進めている旅籠町八日町線が完成すると、車両交通の流入量の増加が予想され、さらなる渋滞の悪化が懸念されます。

そのため、拡幅・整備を行い交通渋滞の早期解消、中心市街地の回遊性・利便性の向上を目的に、現在事業を進めております。

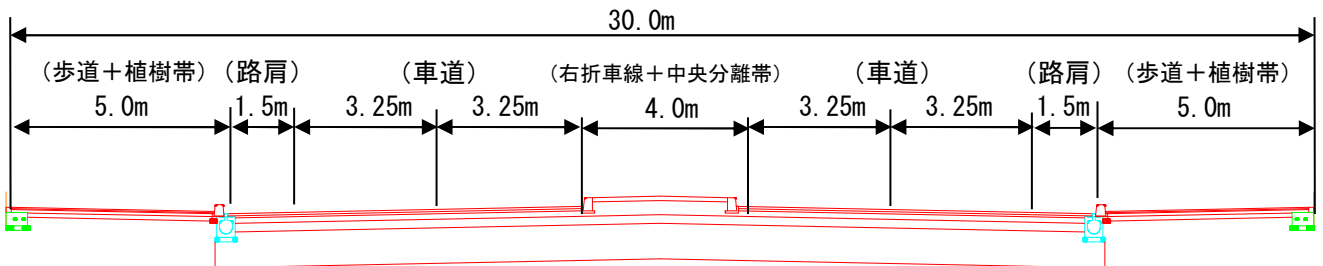
<事業計画>

- ・事業延長：278.1m
- ・計画幅員：30.0m (車道両側に幅5mの歩道を設置)
- ・車線数：4車線 (片側2車線)
- ・事業認可：平成30年度～
- ・総事業費：39億円

<位置図>



<標準横断図>



<事業箇所写真>

■事業予定地 起点(東)側より終点(西)側を望む



(令和4年4月撮影)

- ・写真「中央」の道路が現在の道路（片側1車線対面通行）です。
- ・幅員20mの現道を、両側に拡幅することで、幅員30m（片側2車線対面交通）の新たな道路に生まれ変わります。
- ・道路沿いにある電柱・電線の機能は地中に埋設（無電柱化）され、都市景観と防災機能が向上します。
- ・無散水消雪機能（歩道下に地下水を通すことで雪を消す機能）を備えた歩道となります。